

V 史跡古津八幡山遺跡歴史の広場

1 史跡古津八幡山遺跡保存整備活用事業の概要

(1) 遺跡概要

古津八幡山遺跡は、信濃川と阿賀野川に挟まれた新津丘陵上に立地する弥生時代後期の大規模な高地性環濠集落である。弥生時代後期から古墳時代にかけての社会情勢や変化を示す貴重な遺跡として、平成17年に国史跡に指定された。その後平成23年に追加指定を受け現在は119,641.23㎡が国史跡となっている。

古津八幡山遺跡は今から25年程前の昭和62（1987）年に高速道路の土取り工事に伴う試掘確認調査で発見された。開発予定面積約45haの試掘確認調査で、日本海側最北の北陸系の高地性環濠集落（古津八幡山遺跡）や新潟県内最大規模の古墳（古津八幡山古墳）、古代の大規模な製鉄遺跡群（金津丘陵製鉄遺跡群）が見つかった。日本考古学協会・文化財保存全国協議会等の全国規模の保存運動だけではなく、新潟市文化財調査審議会等の地元を中心とする遺跡の保存運動により、平成2年にはほぼ全域が現状のまま保存されることとなった。

(2) 整備概要

平成17年の新潟市合併建設計画に「八幡山遺跡史跡公園整備事業」として取上げられ整備事業が進展することになった。市町村合併直前の平成16年に保存整備基本計画、直後の平成17年に保存整備基本設計が策定された。そこでは、弥生時代・古墳時代になかった現代的なものは原則として造らないという基本方針が、甘粕健先生を委員長とする整備検討委員会により定められた。弥生時代の高地性集落を彷彿とさせる復元的整備を目指すことになった。

平成18年以降は、整備実施設計が完了したところから整備工事を行っている（表1）。基本設計に従って、園路や階段も史跡へのアプローチや急斜面の階段以外は原則として設けていない。説明板等も景観に配慮し、史跡内では目立たないように地面と同じ高さに設置してある。不便なところもあるが、概ね来訪者の方々からも好評である。

丘陵上の環濠に囲まれた区域は、遺構復元ゾーンとして、堅穴住居7棟のほか、環濠と土塁・方形周溝墓や前方後方形周溝墓を復元整備している。その周囲の急斜面を斜面緑地ゾーンとして、基本的には緑地を保全する区

域とした。ここでは、管理の行き届かなくなった里山景観の保全を行うだけでなく、植林された杉や竹の伐採を行い、長期的にコナラ・クスギ・カン等の弥生時代から古墳時代の植生に置換復元する作業を行っている。杉林も間伐や場所によっては皆伐したことによって、鬱蒼として太陽の光も入らない人口林から、下草の生える落葉広葉樹林へと変わりつつある。

(3) 平成23年度・24年度事業

平成22年度にガイダンス施設の建設工事、平成23年度に展示製作を行い、平成24年4月21日には「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」として開館した。また、高地性環濠集落の遺構復元ゾーンの復元整備が概ね終了したことからガイダンス施設の開館に併せ「新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場」として暫定オープンした。

整備活用事業の事務局は平成22年度までは歴史文化課埋蔵文化財係、平成23年度からは文化財センターで行っている。

古津八幡山古墳の復元整備を行うために、墳丘の規模や形態等を明らかにすることを目的に平成23年度～25年度の3か年にわたり確認調査を実施した（詳細はV3）。

今後は古墳の復元整備工事事を平成25年度～26年度で実施し、平成27年度に全面供用開始の予定である。

この他、来館者のためにガイドブック1～5の5冊を作成する他、平成17年度から24年度までの保存整備事業に関して『国史跡古津八幡山遺跡保存整備事業報告書—2000年の時を越え よみがえる弥生の丘—』にまとめた。詳細はこれをご覧いただきたい。

(4) 施設情報

新潟市古津八幡山遺跡歴史の広場

ガイダンス施設 「史跡古津八幡山 弥生の丘展示館」

住 所 新潟市秋葉区蒲ヶ沢264番地
(花と遺跡のふるさと公園内)

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日・休日の翌日・年末年始（12月28日～1月3日）

入 館 無料

体 験 無料・有料（表2）

駐 車 場 181台（身障者用3台分）共用

交 通 JR古津駅から徒歩20分（1.6km）



図1 史跡復元整備全体図

表1 史跡古津八幡山遺跡整備等年次計画

年度	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
事業内容								第1次整備完了	暫定供用開始 弥生館オープン		第2次整備完了 全面供用開始
史跡指定		史跡指定					追加指定 (B)				
公有化		公有化									
補助事業		買上げ	一般整備	一般整備	総合整備	総合整備	総合整備	総合整備	総合整備	一般整備	一般整備
検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会	検討委員会
調査指導部会								古墳調査 指導部会	古墳調査 指導部会	調査指導部会 古墳復元工事	調査指導部会 古墳復元工事
計画	基本計画 (新津市)	基本設計 (新津市)									
実施設計			A	C. D. Y1	E. F. Y2				B (古墳)		
整備工事			地質調査	A	A. C. D	E. F. Y1. Y2				B (古墳)	B (古墳)
竪穴住居復元					A区5棟	C区2棟					
ガイダンス施設					地質調査	実施設計	建設工事				
展示工事								展示製作			
その他					遊歩道測量設 計	遊歩道整備工事 サイン工事	サイン工事	ガイドブック1 作成			
現況地形測量			A. B. C. D	E. F. Y1. Y2							
間伐			A. C. S1	A. C. S2. S3	C. D. S2. S3. Y2	S1. S2. S3. Y2	F. S3. Y2	B	B. S1. S2. S3	B. S1. S2. S3	B. S1. S2. S3
確認調査			15次調査 F (製鉄). Y1 (水田)				16次調査 B (環濠)	レーダー 探査	17次調査 B (古墳)	18次調査 B (古墳)	19次調査 B (古墳)
自然科学分析			F. Y1		Y1. Y2			B	Y1. Y2	Y1. Y2	
調査報告書								整理作業	整理作業	確認報告書 (15~19次調査)	
整備事業報告書									第1次整備事業 報告書		第2次整備 事業報告書
補助外				既存施設除 却工事		展示実施設計		展示製作	ガイドブック 2. 3. 4. 5作成		



弥生の丘展示館



復元竪穴住居

表2 弥生の丘展示館の体験メニューと料金

メニュー	単位	料金 (円)	所要時間 (分)
勾玉づくり	1個 紐付	200	60
管玉づくり	1組4個 紐付	200	60
土器・土偶づくり	粘土500g	100	120
土笛・土鈴づくり		100	60
鑄造体験	銅鏡1個 紐付	400	30
	銅鐸1個 紐付	900	30
編布 (アンギン) 編み	初心者コース カラムシ5g	300	120
	上級者コース カラムシ10g	500	180
鹿角ペンダント	先端部以外1個 紐付	100	60
	先端部1個 紐付	500	15
土器パズル	飽きるまで	無料	10
火起こし体験	-	無料	15
弓矢体験	一人3本	無料	10
石斧体験	疲れるまで	無料	10

史跡公園

復元竪穴住居・ガイダンス施設の開館時間と同じ。広場は通年利用が可能。

管理 新潟市文化財センターが直接管理を行っている。

史跡公園における芝刈り・草刈り、竪穴住居の燻蒸作業や、枯れ枝の伐採、園路周辺の草刈等をNPO法人にいがた森林の仲間の会に委託している。史跡公園では休館日を除き、4~11月は毎日3~4人、冬期間の12~3月は2人ずつ常駐して作業を行っている。

弥生の丘展示館は、平常は非常勤職員2名と臨時職員1~2名で施設管理や体験学習の指導を行っており、イベント等で来館者が多い時には、文化財センターの職員も一緒に事業を行っている。(渡邊朋和)

2 教育普及活動

高地性環濠集落の主要部分の整備工事がほぼ完了し、平成24年4月21日にはガイダンス施設である「弥生の丘展示館」の開館に併せ、古津八幡山遺跡歴史の広場として暫定オープンした。

歴史の広場の周辺には新潟県埋蔵文化財センター・新潟県立植物園・新潟市新津美術館などの文化施設や、地元の特産品である花木などを販売する花木販売施設があり、新潟市内外からの来訪者で賑わっている。

(1) 展 示

平成24年4月にオープンした弥生の丘展示館は、鉄筋コンクリート1階建て、床面積430㎡で、展示室180㎡、体験学習室118㎡が主な施設である。展示室には古津八幡山遺跡から出土した旧石器時代から平安時代の土器や石器など500点以上を展示するほか、弥生時代のムラの様子を縮尺300分の1の復元ジオラマ模型で再現している。また、展示ケースの壁面には全面に考古イラストレーターの早川和子さんによる復元画を拡大して貼っている。復元画は遠景画と近景画からなり、遠景画は縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代の4つの時代を同じアングルで描き、古津八幡山遺跡の時代毎の変遷や背後に見える越後平野の移り変わりがわかるようにしている。各時代の近景画には早川さんのほのほのとしたタッチの人物が生き生きと描かれており、復元画に付けた説明も簡易なものにして、小学生や中学生にも親しみが持てるように工夫している。また、遺物ラベルも「木を切る斧 磨製石斧」のように2段書きにして、難しい考古学用語が分からなくても、理解できるように配慮した。

問題点としては、常設展示しかないためにアンケートで「いつ来ても展示が同じで、代わり映えがしない。」というご意見をいただいている。今後、小ケースを用意してミニ企画展ができないか検討している。

(2) 復元整備と体験学習

復元整備を行っても弥生時代の生活感を出すことは難しい。遺構復元ゾーンの周辺では、石斧や鉄斧で杉の伐採実験を行っているが、斧で切り倒した切り株を残すだけでなく、切り倒した幹もそのまま残している。少しでも復元集落の中で「動き」を表現できるのではないかという思いからである。つい先刻まで弥生人が居たような演出である。また、ボランティアや職員がつくった弥生土器を周溝墓の溝の中や堅穴住居の内外に置いて生活感を出す試みを行っている。固定していないので、置いた場所が動いていたり、壊れていたりすることもよくあるが、気づいた時に直している。

表3 平成24年度体験学習メニュー(事前申し込み不要)と参加人数

体験学習メニュー			人数(人)		
月	屋内体験(有料)	屋外体験(無料)	個人	団体	計
4月	勾玉づくり	石オノ体験	226	47	273
5月	勾玉づくり	石オノ体験	439	20	459
6月	土器・土偶づくり	火おこし体験	438	156	594
7月	勾玉づくり	弓矢体験	328	238	566
8月	勾玉づくり	石オノ使用体験	295	0	295
9月	土器・土偶づくり	火おこし体験	433	271	704
10月	土器・土偶づくり	弓矢体験	110	0	110
11月	勾玉づくり	火おこし体験	50	71	121
12月	鹿角ペンダント 勾玉・管玉づくり	火起こし体験	33	0	33
1月	土器づくり	火起こし体験	28	0	28
2月	勾玉・管玉づくり	火起こし体験	17	0	17
3月	アンギン編み	火起こし体験	50	0	50
合計			2,447	803	3,250

表4 平成24年度団体種別利用件数と人数

分類	件数	人数(人)
小学校	22	1,313
各種サークル	15	300
中学校	5	114
公民館・自治会・町内会	5	107
市政教室	4	94
行政	3	71
その他	3	43
幼稚園	1	23
研究団体	1	20
合計	59	2,085

弥生時代のムラは樹木・草花・鳥や獣・昆虫などの里山の豊かな自然環境により育まれてきた。史跡整備だけではなく、これらの豊かな自然環境に触れるために、間伐材を用いた樹名板を取り付けたり、植物観察・昆虫採集等の自然に触れ合う

イベントも積極的に開催したりしている。堅穴住居宿泊体験のメニューの一つとして、平成24年の8月に実施した昆虫採集ではクヌギやコナラに取り付けたトラップに一晩で50匹以上のカブト虫が集まった。杉林からなる針葉樹林よりも、クヌギやコナラなどの落葉広葉樹林が豊かな生態系を育てていることを証明している。また、秋の味覚体験では参加者が史跡内で採れたクリや山芋のムカゴなどを堪能した。この他にもクサイチゴやミヨウガ、堅果類など里山は食材には事欠かない。

(3) 体験学習メニュー

弥生の丘展示館では、個人が来館すればいつでもできる体験学習メニューを月毎に決めている。屋内体験は材料費程度の実費をいただいているが、屋外体験は全て無料である(表2・3)。

概ね10人以上の団体の場合は事前に申し込みをお願いしている(表4・5)。団体の種類別では小学校が半数以上を占めている。次いで多いのはサークル団体である。

この他に、市報やホームページ等で広報して、参加者を事前募集して行うイベントを月に1回か2回程度実施している(表6)。

表5 平成24年度団体利用一覧

年月日	団体名	人数(人)
2012/4/21	すずまり	23
2012/4/26	矢代田小学校	41
2012/4/27	東石山中学校	21
2012/5/2	岡方第一小学校	27
2012/5/11	新飯田小学校	10
2012/5/22	横越かたりベサークル	12
2012/5/23	あゆみの会	15
	羽黒山第三小学校	41
2012/5/27	新潟健民少年団	12
2012/6/1	両川小学校	26
2012/6/8	森のようちえん	23
2012/6/9	小須戸公民館	13
2012/6/12	真砂2丁目自治会	31
	動く市政教室『個人参加 遺跡を学ぼう』※	30
2012/6/13	真砂2丁目自治会	28
2012/6/14	金津小学校	316
	動く市政教室『個人参加 遺跡を学ぼう』※	30
2012/6/17	東区市民劇団未来	10
2012/6/21	南浜小学校	20
2012/6/22	史跡めぐりの会	37
2012/6/24	みなとびあファンクラブ	32
2012/7/3	結小学校	109
2012/7/6	新潟小学校	91
2012/7/8	天神町内会	10
2012/7/20	指定都市文化財行政担当者視察	30
2012/7/25	羽生田小学校	13
2012/9/4	動く市政教室『個人参加 発掘現場を見てみよう』※	17
2012/9/6	動く市政教室『個人参加 発掘現場を見てみよう』※	17
2012/9/11	東青山小学校	101
2012/9/12	金津小学校	60
2012/9/15	にいがた観光ツアーバス めぐるん号	13
2012/9/19	小合東小学校	10
2012/9/20	新津第二中学校	21
	鶴岡市立小堅小学校	12
2012/9/21	五泉市中学校区支援学級	33
	ふたかみ史遊会	28
2012/9/26	立仏小学校	80
2012/9/27	鶴岡市立湯野浜小学校	30
2012/9/30	小須戸公民館	25
2012/10/10	新関小学校	13
2012/10/18	山二ツ老友会	18
2012/10/19	五十嵐中学校	29
2012/10/23	山湯小学校	70
2012/10/27	にいがた観光ツアーバス めぐるん号	17
2012/11/1	阿賀小学校	53
2012/11/2	中村さくら会	16
2012/11/10	見附手話サークル	15
2012/11/11	大安場史跡公園ボランティア	26
2012/11/13	五十嵐小学校	120
2012/11/15	新津第一中学校	10
2012/11/16	庄瀬小学校	13
	根岸地区社会福祉協議会	16
2012/11/18	信濃川火焔街道連携協議会	25
2012/11/24	長者ヶ原遺跡友の会	15
2012/12/7	小須戸小学校	57
2012/12/8	山歩きの会	23
2012/12/26	NHK文化センター教養講座	13
2013/2/17	北海道・東北保存科学研究会	20
2013/3/21	長湯長寿会	18
合計		2,085

※文化財センター主催事業

表6 平成24年度体験学習メニュー（事前募集）と参加人数

年月日	内容	人数(人)
2012/5/20	八幡山植物観察	11
2012/6/3	第11回にいつ花ふるフェスタ	1,005
2012/6/24	古津八幡山遺跡探検&弥生土器で煮炊きの実践	22
2012/8/4~5	弥生時代のくらしを体験して、昆虫・星空を観察しよう	22
2012/9/16	まいぶん祭り	331
2012/9/30	鹿角釣り針つくり	6
2012/10/7	古津八幡山発掘体験	16
2012/10/28	古津八幡山 秋の植物観察	8
2012/11/11	古津八幡山 秋の森の味覚体験	18
2012/11/25	古津八幡山 里山クラフトづくり体験	24
2012/12/9	古津八幡山 薫製づくり体験	8
2012/12/16	ボランティア養成講座 3回目	17
2013/1/13	古津八幡山 弥生の餅つき	120
2013/2/3	観察再現講座 石器の製作工程をみる	15
2013/3/3	ボランティア養成講座 4回目(体験①)	11
2013/3/10	古津八幡山 春をさがしに行こう!(植物観察)	13
2013/3/24	ボランティア養成講座 5回目(体験②)	14
合計		1,661

毎年6月1週目に近隣施設と合同で行われる「にいつ花ふるフェスタ」では、1日に1千人以上が入館し体験学習を行った。

平成25年からは近くの休耕田を借りて、黒米や赤米等を栽培する水田

を復元し、脱穀や試食体験を行っている(VI6で詳述)。今後は、弥生時代・古墳時代にこだわった体験学習を行っていきたいと考えている。

(4) 入館者数

弥生の丘展示館は、JR信越線古津駅から徒歩約20分の距離にあり、近くには新潟市新津美術館・新潟県立植物園・新潟県埋蔵文化財センター・石油の世界館等の文化施設や、花卉を販売する民間商業施設があり、地理的に恵まれている。

平成24年4月21日から25年3月31日の弥生の丘展示館の入館者数は33,897人であった。団体に比べ個人入館者が圧倒的に多い。平成24年6月1日に1万人、8月16日に2万人、12月23日に3万人の来館者に証明書と記念品を贈呈した。その後、平成25年7月5日には入館者数5万人に達した(表7)。(渡邊朋和)

表7 平成24年度弥生の丘展示館入館者数

月	個人	団体	人数	累積人数
4月	2,953	85	3,038	3,038
5月	6,114	117	6,231	9,269
6月	5,418	596	6,014	15,283
7月	2,753	253	3,006	18,289
8月	3,302	0	3,302	21,519
9月	2,772	447	3,219	24,810
10月	2,256	154	2,410	27,220
11月	1,784	307	2,091	29,311
12月	757	93	850	30,161
1月	1,217	0	1,217	31,378
2月	921	20	941	32,319
3月	1,560	18	1,578	33,897
合計	31,807	2,090	33,897	33,897

3 古津八幡山古墳確認調査の概要

(1) はじめに

古津八幡山古墳は信濃川と阿賀野川に挟まれた新津丘陵の北西端に位置し、墳頂部の標高は約49m、平野との比高は約45mを測る。墳丘面や墳丘斜面は、第二次世界大戦中や戦後に畑として開墾されたために切り盛りがなされ、古墳本来の姿が大きく損なわれている。

古墳の復元整備（平成25・26年度工事予定）を行うにあたり、形や規模・構造、埋葬施設の有無、築造方法、築造年代の解明を主たる目的として、平成23年度（第17次調査、443㎡、7月11日～11月25日）、平成24年度（第18次調査、459㎡、5月29日～12月25日）、平成25年度（第19次調査、86㎡、6月3日～8月20日）の3か年にかけて確認調査を実施した。

確認調査は、史跡古津八幡山遺跡保存整備検討委員会の部会である古津八幡山古墳調査指導部会の指導のもと、新潟市文化財センターが調査主体となり実施した。

(2) 主な調査成果

調査は幅1mのトレンチを基本とし、必要に応じて面的な調査を行った。掘削は必要最小限とする方針のもと全て人力により行った。トレンチ数は、第17次調査20か所、第18次調査17か所、第19次調査6か所の計43か所である。なお、葺石・埴輪とも確認できなかった。

墳丘の形・規模 墳丘部分は畑による切り盛り等で大きく改変されており、各トレンチにおいても墳丘面が削られている部分が多く存在した。墳端やテラスが判明したトレンチ間を繋いだ平面形態は円墳で、墳丘最大長は東西方向で60mを測る。南北や北西－南東方向、北東－南西方向では短く約55mである。また、1991年の測量調査時に可能性が指摘されていた「造り出し」については、推定範囲を面的に調査した結果、存在しなかった可能性が高いとの判断に至った。

周濠 墳丘の南西側と南東側に周濠が存在することが確認された。両周濠の端は1 Tと4 Tでそれぞれ確認され、周濠間が陸橋状に途切れることが判明した。なお、墳丘南西側に位置する5 Tでは、旧表土から周濠底面までの最大深度が約4mを測る。

段築 幅約4～5mのテラスが確認され、当古墳が二段築成の古墳であることが判明した。テラスは基本的に盛土で造成されるが、旧地形の高い1 Tでは旧表土がテラス面を形成する。テラス内端の標高は、1 Tと6 Tとでは1 Tの方が約0.8m高い。テラス面を水平には形成しておらず、旧地形の影響を受けた可能性が考えられる。



古津八幡山古墳遠景（東から）

埋葬施設 墳頂において十字方向で旧表土まで断ち割りを行ったが埋葬施設は確認できなかった。埋葬施設が確認できないことや、他の古墳の事例から、墳頂部は現況より1m以上高かった可能性が推測され、埋葬施設は削平された可能性が高い。

一方、墳頂部で墳丘盛土を掘って構築された、長軸11.6m、短軸10.7mの方形に巡る溝が検出された。溝の最大幅は約2.1m、深度は約0.4mを測り、出土土器から9世紀後半の溝と考えられる。溝の傾斜からは、掘り込み面が今回の確認面から大幅に高くなるとは考えにくく、溝を掘り込む以前に墳頂部が削平されていた可能性が高い。

築造方法 古墳の築造に関しては、墳丘中央に小丘、外縁に土手状盛土、小丘と土手状盛土の上面レベルで水平面（工程面）が確認できた。青木敬氏の「東日本の工法」と「西日本の工法」〔青木2002〕の折衷といえる。

なお、盛土の硬度を計測した結果、小丘・土手状盛土で比較的高い値を示すことから、要所で強固な盛土を築いたことが推測される。

旧地形 各トレンチで確認できた旧表土レベルから、1 Tから6 T（南東から北西）方向、5 Tから2 T（南西から北東）方向へ向かって下降していく旧地形であったことが確認された。また、古墳の中心域周辺はもともと標高の高い地形であり、古墳築造地の選定にあたって高い場所を古墳の中心域として選択したと考えられる。さらに、地形が比較的急な傾斜で下降していく場所を墳丘の下段斜面として利用した可能性が推測される。

なお、古墳築造前に旧表土を整地・整形したり、野焼きを行った痕跡は確認されず、旧表土上にそのまま盛土をして古墳を築造したと考えられる。

(3) おわりに

青木氏は、前期末頃になると西日本の工法に強く影響を受けた例が東日本各地に出現するが、西日本の工法を熟知していなければ築造は困難とし、古津八幡山古墳の

他に、千葉県市原市大厩浅間様古墳、新潟県上越市丸山古墳、東京都狛江市白井塚古墳、千葉県我孫子市水神山古墳、長野県飯田市新井原13号墳、宮城県仙台市裏町古墳などを例示した〔青木2013a〕。さらに、古津八幡山古墳と墳丘築造技術が酷似する古墳として大厩浅間様古墳を挙げ、両者は近接した時期の古墳と理解するのが自然であるとした〔青木2013b〕。大厩浅間様古墳の時期

は、出土遺物から古墳集成編年〔広瀬1991〕の4・5期に位置付けられる。古津八幡山古墳の4T周濠底面から出土した細片の鉢形土器は、古墳時代前期後半から中期前半の間に取まる可能性が高く、大厩浅間様古墳の時期と矛盾しない。良好な出土資料がなく確定できないが、現時点で古津八幡山古墳は古墳集成編年の4・5期に位置付けられる可能性が高いといえよう。（相田泰臣）

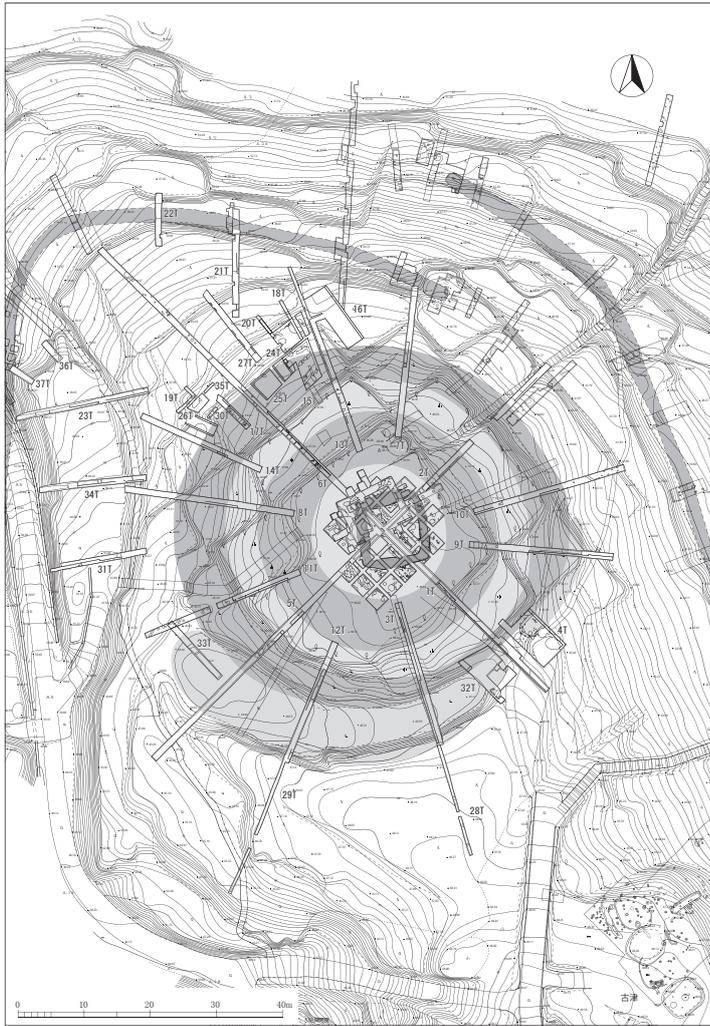


図2 古津八幡山古墳平面図



墳丘南東部（東から）



墳頂部調査風景（北から）



周濠（5T 北から）

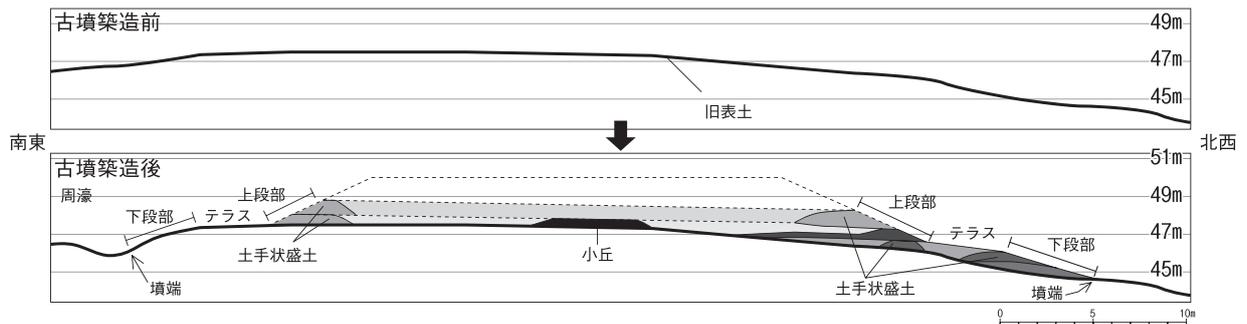


図3 古津八幡山古墳 断面模式図（北西・南東ライン）